

進学クラスCAN-DOリスト

教科(社会)

科目(日本史B)

3年後の到達目標	各学年での目標 (中期的目標)	具体的な取り組み計画・内容				評価指標	自己評価	
		授業プラン	学習のポイント	土曜講習	放課後講習			
	1年生							
2年後の到達目標	各学年での目標 (中期的目標)	具体的な取り組み計画・内容				評価指標	自己評価	
	2年生	1学期	1 織豊政権と桃山文化 2 江戸幕府と諸藩 ・身分制度の確立 ・鎖国	・ヨーロッパ人の来航が日本社会をどう変えたのか。信長・秀吉の統一政策の特徴を理解する。 ・厳しい身分制度を基盤とする幕藩体制を理解する。				
		2学期	3 幕政の推移 ・幕府政治の進展 ・経済と産業の発達	・武断政治から文治政治に転換した背景を理解する。 ・幕府、藩の奨励で各種の産業が発達し、その中から裕福な町人が出現してくる過程を理解する。				
		3学期	4 幕藩体制の動揺と政治改革 ・幕藩体制の動揺と対外問題の発生 ・幕藩体制の危機	・貨幣経済の進展で幕府や藩の財政悪化した背景を理解する。 ・三大改革、各藩の改革はどうだったのかを理解する。 ・外国船の来航の中で封建社会がゆきづまってゆく過程を考える。				
1年後の到達目標	各学年での目標 (中期的目標)	具体的な取り組み計画・内容				評価指標	自己評価	
	3年生	1学期	○ 開国から明治維新へ ・幕府の滅亡 ・統一国家の成立 ・近代国家をめざして ・殖産興業と文明開化 ・明治初期の国際情勢	・政治的主導権をめぐる争いが続くなか、薩長同盟など討幕の気運が高まり、大政奉還後の戊辰戦争で徳川方の勢力が敗れたことを理解する。 ・版籍奉還と廃藩置県によって天皇を中心とする統一国家が成立し、江戸時代以来の身分制度が廃止されたことを理解する。 ・学校制度の確立、国民皆兵が近代化に必要とされたことを理解し、地租改正による近代的土地所有権の確立を考察する。 ・政府が積極的に近代化を進めた結果、交通や通信などのさまざまな分野で西洋化が生じたことを理解させる。 ・政府が琉球・朝鮮に対して強圧的な態度で国境を画定させた一方、ロシアとは平和的交渉で国境画定を進めたこと理解させる。 ・士族反乱の鎮圧後、自由民権運動が活発化し、国会開設の勅諭が出された経緯を理解させる。また、松方デフレ期に民権運動は一時的衰退するが、大同団結運動によって運動が再燃したことも理解させる。 ・大日本帝国憲法成立までの過程やその内容を理解させるとともに、アジアではじめての近代的立憲主義国家となったことの意義を考察させる。				
			2学期	○ 日本の近代化と東アジア ・日清戦争と東アジアの変容 ・「中国分割」と日露戦争 ・工業化と資本主義の発達 ・近代文化の発達 ○ デモクラシーと第一次世界大戦 ・第一次世界大戦と日本 ・新たな国際秩序と日本への影響 ・大衆社会の形成 ○ 激動する世界と日本 ・揺れ動く経済と中国侵略の本格化 ・日中戦争と国内体制の改編 ・太平洋戦争	・日清・日露戦争を清国の朝鮮政策やロシアの極東政策、日本の大陸政策など、世界的視野から考察させる。 ・日本が韓国併合や満州への勢力拡張などを通じて植民地支配を進めたことを理解させるとともに、日本の国際的地位の変化や国民の対外意識の変化、アジア近隣諸国の受け止め方について考察させる。 ・資本主義国家としての基礎確立の過程を理解させる。その上で社会問題、労働問題が発生し、社会運動が起こったことにも着目させる。 ・伝統文化の上に欧米文化を取り入れた近代文化が形成されたことを理解させ、その背景に経済発展や政治、外交などがあることにも着目させる。 ・第一次世界大戦とその前後の国際社会の動向に留意して、日本の対外政策や大戦が国内の経済・社会に及ぼした影響について理解させる。 ・日露戦争後の政治がしだいに民衆の要求に応えざるをえなくなった経緯を考察する。 ・第一次世界大戦の前後、世界では国際連盟の創設や民族自決運動が展開し、国内ではさまざまな社会運動が展開したことを理解させる。 ・労働者の増加や高等教育の拡大による大衆社会の成立に着目し、形成された大衆文化の特色について考察させる。 ・国際経済、全体主義の台頭、中国の民族運動など世界情勢と、軍部の政治的進出や経済恐慌など国内政治と経済の動揺に着目して、中国との戦争とその長期化及び国際関係の変化、太平洋戦争への突入に至る過程を考察させる。 ・戦時体制下の国内経済と国民生活の変化、学問・思想や教育に対する統制など、全体主義的国家体制の進展と国民生活について考察させる。			
	3年生	3学期	○ 占領と国内改革 ・占領と日本国憲法の成立 ・冷戦の開始と経済復興 ○ 国際社会への復帰と高度経済成長 ・国際社会への復帰と対米協調 ・経済の高度成長	・対日占領政策及び戦後の民主化を進める諸改革の内容と、新しい憲法が制定される経過を考察させる。 ・占領政策は、中華人民共和国の成立や朝鮮戦争の勃発に見られる東アジアの情勢の変化により、アメリカの対世界政策の転換と結び付きながら推移することに着目させる。 ・サンフランシスコ平和条約の調印と日米安全保障条約の締結に着目し、占領終結と独立、新しい外交関係と安保闘争など、当時の国際情勢と国内政局について考察させる。 ・高度成長とそれに伴う新しい外交関係、国民生活の変化と経済発展に伴って表面化した社会問題について考察させる。				